

## 多大な功績に旭日の勲章

東八幡平病院及川忠人院長が旭日双光章を受章

政府は11月3日、令和3年秋の叙勲を発表し、(一財)みちのく愛隣協会東八幡平病院の及川忠人院長が旭日双光章(保健衛生功労)を受章しました。

及川院長は「地域医療の確保に向け活動してきた内容が認められた。受章を国からの激励と受け止め、地域のために活動を続けたい」と更なる邁進を誓いました。

【(一財)みちのく愛隣協会東八幡平病院に関する功績】昭和56年11月に(財)みちのく愛隣協会東八幡平病院に着任し、59年4月から現在に至るまで院長を務め、市の医療の中核を担う総合病院の院長として、市のみならず盛岡医療圏の地域医療の確保・育成に貢献しました。また、63年9月からは同協会理事長として訪問看護ステーションを運営し、在宅療養者の医療・介護支援を行うなど、地域医療の充実に尽力しました。

【(社)岩手郡医師会、(社)県医師会に関する功績】59年4月から平成24年3月まで(社)岩手郡医師会の会長などを務め、同会の発展と事業の適正な推進に注力しました。また、4年4月から24年3月まで(社)県医師会代議員会代議員を務めるなど、地域にとどまらず県全体の医療福祉体制の発展に貢献しました。

【地域の保健・教育などに関する功績】市保健福祉連携推進協議会長や市要保護児童対策地域協議会会長などを歴任し、行政の保健医療活動に功績を残しました。

# 話題

## ピックアップ

まちのニュース

皆さんからの情報をお寄せください。  
企画財政課広報広聴係 ☎・内線1202



「関係者の皆さまの長年の思いが形になったもの」と語る



佐々木市長と八重樫婦人相談員

## 悩みに寄り添う支援活動

厚生労働大臣表彰感謝状を受賞

婦人保護事業65周年記念厚生労働大臣表彰を受賞した八重樫恵子婦人相談員(市地域福祉課勤務)は12月13日、佐々木孝弘市長に受賞の報告をしました。

平成22年から市の婦人保護事業に従事。女性の抱える悩みごとや配偶者からの暴力被害の相談、家庭支援などに積極的に取り組む姿勢が評価されました。

八重樫婦人相談員は「悩みを抱える人が安心して暮らせるように、解決の糸口を見出す支援を続けていきたい」と決意を新たにしました。



(仮)八幡平スマートインターチェンジ準備会が設立。東北地方整備局など関係者が出席(11月19日、市役所)



平館青商会と平館高美術部がイルミネーションを点灯。新型コロナの退散願う(11月30日、平館コミセン敷地内)



1月22、23日に開かれる東日本バイアスロン選手権大会の協力協定書を締結(12月24日、岩手駐屯地)



賞状と記念品を手に笑顔の越田さん

## 税の使い道に理解深める

「税についての作文」で仙台国税局長賞受賞

盛岡税務署は11月25日、西根中を訪れ、令和3年度中学生の「税についての作文」で仙台国税局長賞を受賞した越田玲菜さん(2年)に賞状を手渡しました。  
「素晴らしいふるさとのために」と題し、税金を治療に使うよりも予防のために使う方がより良い使い方だと訴える内容で受賞。税について授業で学んだことをきっかけに、自分で調べ理解を深めて書き上げました。越田さんは「受賞できてうれしい。納税するようになったら、しっかりしたい」と笑顔を見せました。



笑顔で手作りしたしめ飾りを披露する参加者

## 手作りで新年を迎えよう

しめ飾り作りの講習会を開催

しめ飾り作り講習会(市シルバー人材センター主催)は12月15日、西根地区市民センターで開かれ、参加した12人がしめ飾り作りに挑戦しました。  
同センターの会員らが8月から9月にかけて刈り取り、乾燥させたスゲを材料に手作り。参加者は思い思いの形や装飾を施し、気持ちを込めて作り上げました。  
後藤エミコさん=下町二区=は「1年がいい年になるように気持ちを込めて作った。手作りしたものは気分がいい」と満足げに語りました。

## 地方の元気をどうつくる

市議会と市当局で合同の研修会開く

見聞を広めて時代に即した議会運営につなげる目的の議員研修会は11月19日、市役所議事堂議場で開かれ、議員や市職員など56人が地方の現状と今後の方向性について理解を深めました。

中央大学の佐々木信夫名誉教授を講師に迎え「転換期を迎えた地域経営～地域の自立と広域のまちづくり」をテーマに開催。佐々木名誉教授は「県より大きな単位で地域特性を生かす州制度を導入し、中央集権から地域主権の日本に変わるべき」と持論を述べました。



鹿県置州のメリットを説明する佐々木名誉教授

## 伝統技法を後世につなぐ

紫根染(絞り模様)の体験教室を開催

平館高家政科学科は11月24日、市民向けに紫根染体験教室を開き、地域に根付く染色技法の魅力伝えました。

同教室は10年ほど前から実施。参加した12人は生徒の手ほどきを受けながら、割り箸やビー玉など使って、絹のストールに絞り模様を付けました。

講師を務めた上山真穂さん(3年)は「上手く教えるのは大変だが、紫根染のことを知ってもらえた。今後も、伝統をつなぐ活動を続けたい」と決意を語りました。



紫根染ストールに納得の表情を浮かべる参加者



八百屋さんでの買い物体験を楽しむ参加者

## ふれあいの中で成長促す

親子でふれあい子育て学ぶ場を提供

親子教室は11月22日、市役所多目的ホール棟で開かれ、市内の親子7組が参加し、お店屋さんごっこなどを体験しました。

子どもの成長や地域での子育ての大切さを学ぶ機会を提供するため、月に1回開催。会場には、ふれあいを楽しむ子どもたちの元気な声が響き渡りました。

高橋奈生さん=野駄=は「コロナ禍で遊ぶ場所が減る中でこのような交流する場があるのはうれしい。気分転換になる」とほほ笑みしました。



賞状を手にする(左から)佐藤さん、工藤(煌)さん、工藤(永)さん

## 食べて広がる笑顔の輪

県食育標語コンクールで西根中3人が受賞

令和3年度県食育標語コンクール(県食育推進ネットワーク会議主催)で西根中の生徒3人の作品が優秀賞と入賞に輝きました。

「楽しく食べよう」をテーマに作品を募集。応募総数1,116件から工藤煌さん(2年)と工藤永遠さん(1年)が優秀賞に、佐藤慶貴さん(1年)が入賞に輝きました。

工藤煌さんは「家族で食卓を囲む大切さが伝わってほしい」と期待を込めました。

## すなっぶギャラリー



市食生活改善推進員連絡協議会が県食育貢献者知事表彰の受賞を報告(11月24日、市役所)



市博物館友の会と平館高が共同制作したぬいぐるみ「土偶ちゃん」を展示(12月1日～17日、結のひろば)



11月24日で100歳を迎えられた石羽根トヨノさん=南寄木=これからもお元気で(11月25日、富士見荘)



11月3日で100歳を迎えられた高橋マツさん=上野駄=これからもお元気で(11月4日、はらからの里)



安全な運営と多くの来場を願いテープカットを挙(11月18日、安比高原スキー場安全祈願祭)